

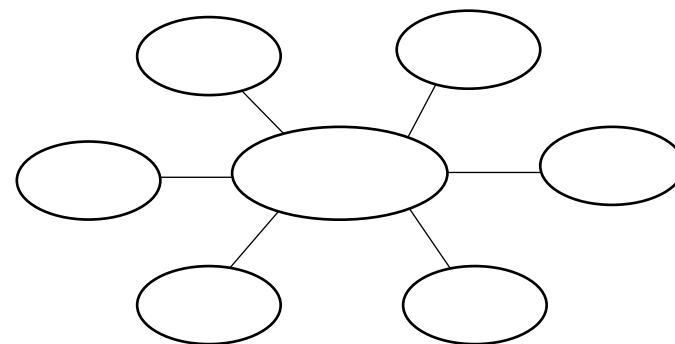
ウェビングマップ

ウェビングマップは、思い付いたアイデアを次々と記載していき、そのアイデアをつなげていく思考の整理に役立つ。また、そのアイデアが生まれた場面が可視化でき、その場面に戻って、また違うアイデアをつなげていくことができる。観察や実験などで収集した情報を再構成し、関係や傾向を見出すために、「分類する」「関連付ける」などの思考力の育成に有効な思考ツールの一つである。

ウェビングマップを使うときには、特に、「何を書くべきか」を気にしないのが重要である。むしろ、通常なら書かれるはずがないことが、もの見方を柔軟にしてくれる。

ウェビングマップは、別名「イメージマップ」とも言う。

ウェビングマップ



【使い方】

- ①紙の中心にこれから考えを広げるトピックについて書き込ませる。1つの単語でも、「〇〇する方法」というような短い文でも構わない。
- ②そのトピックに関係あると思うこと、思い付いたことをまわりに書き、トピックとの間に線を書かせる。なるべくいろいろなことからアイデアを広げて、できるだけたくさん書くようにする。
- ③さらにそこから思い付くことを広げ、さらに外側に（2段階、3段階と）つないで書くこともある。
- ④書き出したこと同士が関係が深いと思ったら、お互いを線で結ぶ。
- ⑤アイデアが出たら、似たもの同士を集めてまとまりを作ったり、階層化できるか検討させたりする。再度、ウェビングマップを書き直してもよいが、別のシンキングツールにまとめてもよい。その上で、実際に調べることを絞り込んだり、感想文に書く事柄を選んだりさせる。

ウェビングマップ 例

